

民報 ゆうばり

11. 8TPP反対全国いっせい宣伝行動!

食の安全、医療、雇用などのルールを破壊するTPP!

「TPP反対!」の一点で 共同を大きくひろげよう!

日本共産党夕張市委員会とくまがい桂子市議は8日、17か所で街頭宣伝を行いました。

「いま大問題のTPP、日増しに反対の声が大きくなっていきます」とくまがい桂子市議がマイクを握って訴えるなか、のぼりを立て、用意した800枚のピラを配りました。訴えの内容(要旨)はつぎの通りです。

TPP(環太平洋連携協定)は輸入品関税ゼロのねらい

TPPは、輸入品にかける税金を例外なくゼロにするのがねらいです。これでは、日本の農業は壊滅させられると農林水産省も認めています。農業や漁業、林業が盛んな東北の被災



街頭行動で、TPP問題を訴えるくまがい桂子市議

の雇用がなくなる計算です。

混合診療の全面解禁や株式会社への参入など、医療に市場原理を導入し、世界的に評価の高い日本の国民皆保険制度を破壊してしまいます。

『本当にお金がなければ医療が受けられない時代がくる』と日本医師会も反対しています。

アメリカ型の『弱肉強食』社会の押し付け

アメリカ型の『弱肉強食』社会が押し付けられてしまうのがTPPなのです。

派遣労働をいっそう拡大し、雇用がおよびやかされます。TPPの最大の目的は、日本の大企業の海外進出をさらにすすめることです。TPPで、もうかるのは一部の輸出大企業だけです。

『関税ゼロ』で大企業の利益が増え、私たちが国民生活はうるおいません。

いま必要なことは、国内産業を守り、雇用を増やすこと

いま必要なことは、国内産業を守り、国内の雇用を増やし、国民のふところを豊かにすることではないでしょうか。

青年の2人に1人が非正規雇用となり、ホノルルで開かれたアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会に達するという、いまの日本は異常です。TPPは『亡国政治』そのものです。

首相は『アジア太平洋地域と連携するための』といいますが、アジアでTPP交渉に参加するのはたったの4カ国です。『関税ゼロ』の打撃は、国の経済にとつてあまりに大きいです。

TPP反対の一点で共同を!

日本共産党は、アメリカ一辺倒からぬけだしアジアの国々と平等・互恵の経済関係を発展させることを提案します。

TPP反対の一点で共同を大きく広げていこうではありませんか—と、よびかけました。

13日、野田首相、TPP交渉参加表明

首相は13日、米国が非正規雇用となり、ホノルルで開かれたアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会に出席し、TPP交渉に参加することを表明しました。

15日、参院予算委でコメ・医療保険も自由化首相：否定せず

15日開催された参院予算委員会では、コメ(関税撤廃の)例外品目にするのかや国民皆保険制度についての質問を受け、首相は「自由化の対象となる場合によつてあるかもしれないなど」と無責任な答弁を繰り返して、「あくまで協議が整うよう全力をあげる」と協定参加への強い執念を見せています。

議会とPTA、札幌弁護士会との懇談会



は減るが市内の各地域を回れるように考えたいと話していった。

夕張の資源をどう活用するか
第1回見学会開催

夕張市議会では、11月9日、はまなす会館でPTAや学校支援ボランティアと懇談し、必要な支援や通学の問題などについて懇談しました。また、翌日10日には札幌弁護士会地域司法対策委員会の5人の弁護士さんと夕張での週1回の無料法律相談に関連して市民の皆さんの相談等について懇談しました。

司法アクセスの障害(距離的、心理的、経済的問題)を取り除くことを目的に、今年度4月から3月までは毎週30分6枠の相談を無料で実施、4月以降、回数



流れ出る源泉に足をつける見学者

源泉2号は、市内の高齢者施設で利用されていますが、源泉1号は、入口ゲートから林道奥の山深い川沿いにあり、地下から吹き出した温泉は利用されることなく川に流れており、今後何らかの活用が期待されます。

建交労定期大会
新委員長選出
「憲法を夕張に生かし・脱原発を」

11月6日、はまなす会館において、全日本建設交通一般労働組合夕張支部の第68回定期大会が開かれました。

今年度は北炭新鉱大事故から30年、さらに東日本大震災8ヶ月という情勢を反映し、日本の政治・経済・社会のありかたの根本を問い直すのと、運動方針が提起されました。



来賓挨拶で情勢報告するくまがい桂子市議

また、10月に逝去された後藤泰男委員長の後任に野呂義則さんが選出され、再選も含め8人の新役員を選出しました。

—安心して住み続けられる北海道を—
「とめよう!なくそう!原発」
11.23道民集会

・とき 11月23日(水)
11:00~

・ところ 札幌市・大通り西8丁目
*デモ行進(11:40~12:30)



主催「軍事費削って、くらしと福祉・教育の充実を」道民大運動北海道実行委員会



日本共産党中央委員
道政策委員長

畠山 和也の

「かけある記」

「子どもたちもTPPは許さない」

TPP参加を表明した野田政権。政権交代を果たした〇九年のマニフェストを読み直しましたが、どこにもTの字さえ出てきません。安い農産物・水産物が入り農漁業が打撃を受けることや、医療・公共事業などで外国資本が入った今の制度が壊されることなど、政府は何一つまともにも答えませんでした。ここまで国民の声を無視するかと、腹立たしい毎日でした。

各地を回る合間に、うたごえサークル「春の森」の定期公演を見に行きました。脚本を書かれている関山さんと過去に對談して以来の間柄なのですが、今年は新十津川町を舞台に「稲の生長」がテーマになっていました。稲の役をする子どもたちが「米づくりの村はどこへ行ったのしょう」と歌い、最後にナレーターが「国のおえらい方のみなさん、頼みますよ」と語る一言も、とても重たく受け止めました。

先日、六歳の娘が調理されるワカサギを見て「心臓はどこ」と聞き、教えてもらったワカサギの天ぷらを食べられなくなってしまう。命を食べることへ葛藤が生まれ、たんだなと思いついて、「このことを通じて「いただきます」の意味を娘と話しました。

自然・食料・命が大切にされる社会こそ、豊かな社会ではないかと思えます。効率や利益を求め、規制をなくし市場まかせにした小泉「構造改革」の悪夢を私たちは経験してきました。原発「安全神話」の次に出てきた、TPP「成長神話」もまやかしばかり。撤回に向けて、たたかいはこれからです。